

1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

「文教のまち」として戸畑の価値をさらに高め、多世代に魅力のあるまちづくりを進めていき、「行ってみたいくなる、住みたいくなる、住み続けたいくなる街」を目指す。

- 学生が多いという強みを活かし、若者を含めた広い世代の意見を広く聴きながら、今後の活気ある街づくりに繋がる取組みや、若者の居場所づくりの取組みを積極的に進める。
- さまざまな戸畑区の魅力を面的につなげ、地域や学生などが活発に交流する魅力と活力のある街をつくっていく。
- 行政に対する市民からの信頼を高めるため、市民サービスの最前線として、きめ細やかな対応と弛まぬ改善により区民が快適で利用しやすい行政サービスを提供する。

2 基本情報

(1) 令和8年度局全体当初予算額

記載不要

(2) 組織(課名) (R8.4.1付)

総務企画課、コミュニティ支援課、市民課、国保年金課、まちづくり整備課、保健福祉課、保護課

(3) 所管の政策連携団体

なし

(4) 所管の主な公共施設(運営方法:直営、指定管理、その他)

直営	市民センター(12)、戸畑区役所庁舎、戸畑区役所新池倉庫、戸畑区普通財産(戸畑祇園倉庫)
その他	戸畑区保護司会館(貸付)、旧中原市民センター(その他)

3 令和7年度局区X方針の振り返り

○全体の振り返り(総評)

今回初めて「とばたマンス！」と冠付けし、官民共同による一体的なイベント実施や団体同士の顔の見える関係づくりに取り組み、民間のチカラを活かした「賑わいづくり」の連携や機運が生まれてきている。また、若者のチカラを最大限活用し、公園での3on3バスケットボールの社会実験を通じて、若者の意見を掛け合わせた「まちづくり」「賑わいづくり」に取り組んだ。

今後も若者や地域等を巻き込みながら、市民が主体的にまちづくりに取り組むきっかけづくりや機運の醸成を図っていく。

○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果

「とばたマンス！」の取組みにより、団体間の顔の見える関係が生まれるとともに民間から「また連携していきたい」という話も出てきている。また、高校生のアイデアを実現させた3on3バスケットボールの社会実験では、高校生がアイデア出しや近隣マンションへのチラシ配布などに主体的に関わった。その結果、「私達の意見が本当に実現して嬉しい」という声が届いている。

○取組・進捗が十分でなかった項目・内容(理由)・令和8年度に向けた考え

団体同士のつながりや民間主導のまちづくりは、一朝一夕に築けるものでないため、各イベント同士の連携強化や回遊性向上による相乗効果を引き続き取り組んでいく。また、社会実験から見えてきた安全対策等の課題を解決しながら公園にバスケットゴールの設置に向けた検討を進めていく。

引き続き、若者の声を拾い上げ、地域等を巻き込みながら賑わいづくりや地域づくりにつなげていく。

課題領域 A

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
行政サービス	(1)窓口業務の応援体制整備	<ul style="list-style-type: none"> 課を越えた業務応援体制の制度設計と試験運用
行政サービス	(2)市民に寄り添ったDX窓口	<ul style="list-style-type: none"> 支援窓口設置による市民サポート体制の構築 体験講座及び人材育成実施によるDX支援の強化
行政サービス	(3)認知症の人の権利と資産保全	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体や関係部署等へ相談先周知や研修 金融機関、警察署との連携強化
若い世代の居場所づくり	(4)気軽にあつまり交流できる場としての区役所づくり	<ul style="list-style-type: none"> 若者の居場所情報の周知と利活用の検討

課題領域 B

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
多世代・地域交流の仕掛けづくり	(1)「歩いて楽しいウォークアブルなまち」としての回遊性向上と賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> 官民共同による賑わいづくりの実施 汐井町公園整備に向けた周知と設計等の実施
地域コミュニティ	(2)持続可能で自律した地域コミュニティの構築	<ul style="list-style-type: none"> 「地域担当者制」による各地域の課題収集と横展開 市民センターでの“推したくなる”講座の企画と情報発信 防災訓練を活用した多世代交流

課題領域 C

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
まちづくり	(1)「文教のまち」として選ばれるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 「文教のまち」としてのポテンシャル調査 関係者との意見交換等を実施

【凡例】

○課題領域

A ・行政サービス現場改善にかかる課題

B ・課題の掘り起こしが済み、変革の実行段階にあるもの

・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの

C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

課題A (1) 窓口業務の応援体制整備【政策分野：行政サービス】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス【インパクト:低】【緊急度:高】

②課題の内容

- 窓口業務を担当する区役所各課では、窓口における行政サービスを継続的に提供する必要がある。
- しかしながら、小規模区ということもあり、組織の人員体制は非常に脆弱であり、常に余裕がない状態にある中で急病などで職員が出勤できなくなった場合は十分なバックアップ体制が組めず、安定した行政サービスを提供するための人員体制を維持する上で多くの課題がある。

③課題の背景や現状

【課題の背景】

- 市内7区役所には、制度所管局の定める行政サービスを、各区民に対して公平に提供することが求められているが、職員数が少ない小規模区では、大規模区に比べて交代職員等の余裕がないため、行政サービスを継続的に維持するための人員体制に大きな課題を抱えている。
- 特に、親の介護や子育て、本人の健康上の理由等で業務負担に配慮が必要な職員や再任用短時間職員が区役所には比較的多く配置されており、行政サービスを継続的に維持し、公平に提供するための人員体制は非常に脆弱な状況にある。
- さらに、そのような最小人員体制の中で職員が休暇を取得する際には、予め別の職員を窓口等に配置する必要があるため、所属長や担当係長は予め想定した人員配置を行っているものの、急病や緊急の事情で突発的に休暇を取得することとなった場合には、その人的マネジメントが崩れるため、所属長自ら窓口対応を行ったり、他の職員に休暇取得の予定変更を要請するなどの対応を余儀なくされている。

【課題の現状】

- このような状況が続くと、窓口対応に時間を要したり、事務処理チェック体制にしわ寄せが行き、市民とのトラブルや事務ミスが発生するリスクが高まることが予想される。また、職員は長期休暇の予定を立てることが難しく、ワークライフバランスの確保が難しいなど、「従業員満足度」(※1ES)にも影響し、仕事のやりがいや職場環境に深刻な悪影響が生じてくる。
- なお、区役所には、区長権限で兼務発令することができる「区長による兼務発令」制度があるものの、業務繁忙期など1～6カ月間の期間を対象とし、事前に人事課との協議が必要であるなど、緊急的な職員応援を想定した制度となっておらず、柔軟な運用が難しいため、課題に対する解決策とはなっていない。

④目指す成果 – 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) –

- 窓口業務の人員が急遽不足した場合に、課内解決ではなく区役所全体で柔軟に応援体制を維持できる仕組みを構築し、サポート職員の活躍によって行政サービスの低下(窓口の閉鎖や待ち時間の増加等)を防ぐ。
- また、経験豊富な職員が活躍する場を提供し、窓口業務の質と継続性を維持することで、区役所職員のQOL(※2)の向上を目指す。

※1:ES(Employee Satisfaction)とは、従業員満足度を意味し、職員の職場環境や仕事に対するやりがいなどの満足度合いを表す尺度のこと。

※2:QOL(Quality of Life)とは、生活の質が良い状態のことで、個人が自分の生活(人生)に充実感や満足感、生きがいをもっているかを指す指標のこと。

課題A (1) 窓口業務の応援体制整備【政策分野：行政サービス】

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1) サポーター職員の選定・養成

- 既存職員の対象者に加えて、今年度異動してきた職員を加えた対象者リストを作成
- 職員へのサポーター職員としての役割説明、登録要請等
- サポーター職員の養成・・・即戦力として稼働できるように、制度改正等も含めた業務知識のアップデートを目的に新任者研修等への参加を行うなど、希望者にスキルアップ研修を実施。
- 運用に関する要件整理と見直し検討・・・サポーター職員の任命と派遣方法に関する要件整理
- DX化の検討・・・事務処理のデジタルワークフロー化、タレントマネジメントシステム(※3)による職員情報一元管理ツールの検討
- 試験運用
- 評価と総括の実施

※3:タレントマネジメントシステムとは、職員のスキル・経験などの情報を一元的に管理し、活用できるITツールのこと。

第1四半期(4～6月)	第2四半期(7～9月)	第3四半期(10～12月)	第4四半期(1～3月)
<ul style="list-style-type: none"> ・サポーター職員の選定・養成 ・運用要件の整理(DX化の検討) 		試験運用 (お試し応援)	評価・総括

課題A (2) 市民に寄り添ったDX窓口【政策分野：行政サービス】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス【インパクト:低】【緊急度:高】

②課題の内容

- DX技術を積極的に導入し、行政サービスの質と効率を向上させる一方で、デジタルに不慣れな方や配慮が必要な方を含む全ての区民が利便性を享受できるよう努める。
- 特に対面サポートを必要とする方には、質の高い相談時間を十分に確保できる体制を構築する。

③課題の背景や現状

【課題の背景】

- 令和7年度の啓発活動により、戸畑区ではコンビニ交付割合が5.2ポイント増加するなど、手続きの分散化が進んでいる。
- 市民との近接性が高い「コンパクトシティ・戸畑」の特性は、行政における大きな強みである。

【課題の現状】

- 窓口に来庁する市民は「より複雑な相談」や「対面での安心感」を求める傾向が強まっている。
- また、利便性の高いデジタル手続きと、心通う対面サポートを融合させた「ハイブリッド型窓口」の実現が求められている。
- 昨年度導入した「書かないシステム」を基盤に、事務処理の効率化により創出した時間を活用して市民の困りごとに寄り添う「相談機能を強化」した質の高い行政サービスが求められている。

④目指す成果 -市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

- 北九州市内で最もコンパクトシティである戸畑区の強みを活かし、「待たなくて良い人はより早く、支援が必要な人はより丁寧に」というメリハリのある窓口サービスを実現する。デジタル化による効率化の恩恵を、そのまま「市民への寄り添い(温もり)」に還元し、行政への信頼感と利便性が両立したまちづくりを推進する。

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1)「ゆっくり窓口」の設置

- 相続などの戸籍の請求手続き等において、平均的な窓口対応時間を超えて丁寧な説明を必要とする市民向けに、「ゆっくり窓口」を設置し、心理的な焦りを感じさせないサポートを実施。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・運用ルール策定・広報 ・運用開始	・予約状況の分析・調整		→

(2)「あんしん窓口」の導入

- 難聴者への「対話支援機器(卓上型対話支援システム等)」を設置し、聞き取りの不安を解消。
- 多言語翻訳アプリやタブレットを活用し、増加する外国籍住民に対し、専門用語を介さないスムーズな意思疎通を図る。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・機器の選定・導入 ・操作研修→運用開始			→

4 課題

課題A (2) 市民に寄り添ったDX窓口【政策分野：行政サービス】

(3)「かんたんDX講座」の実施

- 市民センター等での出前講座を、単なる「説明」から「体験(スマホでの申請体験など)」などへシフトし、「便利さを実感した市民」を増やすことで、窓口混雑のさらなる緩和と、市民自身のデジタルスキルの底上げを図る。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
<ul style="list-style-type: none"> 講座プログラム決定 広報→実施 		<ul style="list-style-type: none"> アンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> 改善点の洗い出し 次年度反映

(4)「DXコンシェルジュ」の育成

- デジタル手続に精通し、高いコミュニケーション能力を持って市民に寄り添った対応ができる職員を育成する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
<ul style="list-style-type: none"> 庁内研修、オンラインセミナー等受講 現場でのOJT 	<ul style="list-style-type: none"> 実践 		<ul style="list-style-type: none"> 改善点の洗い出し 次年度反映

4 課題

課題A (3) 認知症の人の権利と資産保全【政策分野：行政サービス】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス【インパクト:低】【緊急度:高】

②課題の内容

- 認知機能の低下した高齢者の預貯金の一部が、生活支援を依頼された知人の手元に必要以上に渡っている可能性のある事案があったことを受け、今後、高齢者の資産を守るため、まずは関係者等が被害のリスクを把握し、連携し必要な支援に繋げる仕組みが必要。
- (参考事例)
- 一人暮らしの高齢者。介護サービス未利用で生活に支障はない。認知機能の低下は見られる。
 - 知人が生活の支援をしている。金融機関から警察への相談をきっかけに、多額の金銭が知人の手元に渡っている可能性が見えてきた。しかし、本人の意思もあり、警察も事件として取り扱えず、確実にその資産を守る手がない。

③課題の背景や現状

【課題の背景】

- 認知症や軽度認知障害(MCI)の高齢者は全国で1千万人以上いると推計されている。本市の認知症高齢者数はR6年時点で42,887人と推計されており、H14年と比較し約2.8倍の伸び、高齢者人口14.8%、要介護高齢者の64.4%を占めている。

【課題の現状】

- 日常生活は介護保険サービス等で支援は可能だが、預貯金等の資産を守る支援は成年後見制度や地域福祉権利擁護事業(金銭管理や手続き援助等を行う事業)といったものに限られ、ある程度、日常生活が自立している高齢者(自身の意思がはっきりしている)には活用できない。
- 金融機関への調査において、「金融と福祉の連携の拡充」「認知機能低下と金融リスクへの統合対応」が示唆されており、詐欺等の経済的被害防止と生活支援を一体的に捉える新たな政策の枠組みが求められている。(参考:2026.4.22 慶應義塾大学経済学部附属経済研究所ファイナンス・ジェロントロジー研究センターによるプレスリリース資料)

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

- 高齢者にとって、認知機能の低下があっても自身の意思を尊重され、きめ細やかな支援により自身の預貯金等の資産が守られる。

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1)地域団体、専門職や区役所内各部署に対する取組み

- 毎月開催される民生委員児童委員協議会の場で、日頃の見守り活動において資産の被害が疑われる方がいれば警察や区(地域包括支援センター)へ相談していただくことを周知する。
- 自治区会、まちづくり協議会、校区社会福祉協議会、市民センター館長に対する相談先の周知。
- 区役所職員や市民センター職員等を対象に権利擁護に関する研修の実施。
- ケアマネジャー等の専門職に対する相談先の周知(研修等の場での再周知)。
- 個別事案からの地域課題として、包括ケア会議で対応を検討、市の会議体へ課題提起する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・研修等計画	・権利擁護研修実施	・専門職向けの周知 (地域ケア研究会の場を活用)	・課題整理
・関係団体への周知	→		・本庁関係部署と協議
・包括ケア会議(事案検討)			→

4 課題

課題A (3) 認知症の人の権利と資産保全【政策分野：行政サービス】

⑤令和8年度の実施内容(四半期間隔)

(2)金融機関、警察署との連携強化の実施

- 金融機関との情報交換の場を設定するなど、情報共有を積極的に図る。
- 警察署とは、被害を受けている可能性のある高齢者の事案があれば、情報共有等連携して対応することの認識の共有を図る。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・金融機関と連絡調整	・金融機関への訪問等		・実施内容の振り返り ・課題の整理

4 課題

課題A (4) 気軽に集まり交流できる場としての区役所づくり【政策分野：若い世代の居場所づくり】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】【緊急度:低】

②課題の内容

- 区役所は地域の中心部に位置しているが、行政手続きなど用事のある人以外には入りづらく、若い人が気軽にふらりと立ち寄るような雰囲気ではない。(閉鎖的なイメージ)

③課題の背景や現状

【課題の背景】

- R5年度の各区における「ミライ・トーク」では、高校生から地域における自分たちの居場所を作ってほしいとの意見が多くあった。

【課題の現状】

- 戸畑区役所への来庁者は、各課での手続き等に来られる方がほとんどであり、高校生などの姿をみかける機会は非常に少ない状況であった。

（【参考】これまでの取組みについて）

- R6年度に戸畑区内の高校生がワークショップを実施し、区役所庁舎で子どもや若者が気軽に集まり、交流できるスペースについてアイデア出しを行った。
- R7年度にそのアイデアを九州工業大学、大英産業株式会社の協力を得ながら、戸畑区役所2階のフリースペースに「とばたひらきば」をオープンした。
- このスペースは、北九州市産の木材をふんだんに使ったカフェの様な室内で、高校生のアイデアである「フリーWi-Fi」、「気軽に集まれて、おしゃべりや勉強ができる」、「飲食可」、「靴をぬいでくつろげる小上がり」などのアイデアを実現している。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

- 「とばたひらきば」を含む区役所庁舎を有効活用し、若者の居場所を作ることで、若者の多様な交流の場を生み出す。
- また、区役所庁舎を訪れる人が、その様子を見ることで、区役所に対する閉鎖的なイメージを打破し、開放的なイメージへの転換につなげる。
- 最終的には、若者だけの交流の場ではなく多世代の交流の場となることを目指す。

⑤令和8年度取組内容(四半期間隔)

(1)若者の居場所づくり

- 学生と共同で「とばたひらきば」を含む、「若者の居場所マップ」を作成し、区内の学校へ広報を実施していく。
- また、学生の利用が少ない日中の時間帯は地域の方の居場所となり、多世代の方が利用できるような活用方法(例:地域のお店によるマルシェ)やイベント(例:ミニコンサート、映画上映会)等を検討していく。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・若者の居場所マップによる広報	・今後の活用方法について関係業者と協議	・活用に向けて機器や資材を設置、利用開始	・利用状況調査や利用した方から意見聴取を実施し、翌年度以降に向けて検証を行う

4 課題

課題B / (1) 「歩いて楽しいウォーカブルなまち」としての回遊性向上と賑わいの創出【政策分野：多世代・地域交流の仕掛けづくり】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】【緊急度:低】

②課題の内容

- ・ 戸畑区には、都心部を貫く中央通りや、戸畑駅から近く利便性の高い汐井町公園、多くの若者が集まる九州工業大学、自然と歴史のあふれる夜宮公園など、ポテンシャルある施設が近接している。一方で回遊性を促す一体的な取り組み等がなく、十分な街の活性化に繋がっていない。
- ・ また、戸畑区は、3大祭り等のイベントを開催し、毎年多くの市民や観光客が訪れる賑わいづくりに取り組んでいるが、多くのイベントが概ね行政主体で実施されている。継続的な実施のためには、まちづくり団体同士の連携強化や育成が不可欠である。

③課題の背景や現状

【課題の背景】

- ・ 北九州市のほぼ中央に位置し鉄道や都市高速道路、若戸大橋があるなど市内各地域への行き来がしやすい場所であり高いポテンシャルを有している。

【課題の現状】

- ・ 一方で、以下のポテンシャルある施設について、課題を抱えている。
- ・ 駅前から区役所を経由し、夜宮公園方面へとまちの中心部を貫く中央通りは、歩道が広いが道路法の規制等によりこの好条件を有効に活用出来ていない。
- ・ 汐井町公園は、戸畑駅から徒歩3分と利便性のよい都心部に位置しているが、認知度不足等により利用者が少ない。そのため、令和7年度に高校生のアイデアを実現するため、3on3の社会実験を実施した。
- ・ 九州工業大学は多くの若者が行き来しているが、九州工業大学駅前の通りは空き家店舗が目立ち、また大学の延長線上にある夜宮公園一帯までの回遊性が低い。
- ・ 賑わいづくりにについては、個人商店、企業、地域団体、教育機関等が各々で取り組んでいるが、相互連携の機会が乏しい。令和7年度に団体間の顔の見える関係づくりのため「とばたマンス！」を実施しており、このような仕組みの継続により更なる連携強化が必要。

④目指す成果 -市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

- ・ 歩道などのパブリック空間の有効活用も含めた市民等の交流やイベントを通じ、多種多様な賑わいづくりが生まれることで、回遊性の高い、歩きたくなるまちの実現につながる。
- ・ 単独では実施できなかった大規模な賑わいづくりが可能となる等、各団体の事業性が高まり、モチベーション維持や持続可能な運営体制の構築につながる。

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1)「歩きやすいまち」・「歩きたくなるまち」の推進

- ・ まずは、「とばたマンス！」を軸に団体間の連携強化を図りながら中央通り周辺などで官民共同による賑わいづくりを通じ、各施設・イベント同士の回遊性向上の仕掛けや若者のチカラなどを巻き込み賑わいづくりの相乗効果に取組む。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・団体間の連携強化 ・官民共同による検討・企画立案	・企画調整	・官民共同による賑わいづくり ・課題の明確化	・取組みの振り返り、次に向けた意見交換

4 課題

課題B / (1) 「歩いて楽しいウォーカブルなまち」としての回遊性向上と賑わいの創出【政策分野：多世代・地域交流の仕掛けづくり】

⑤令和8年度の実施内容(四半期間隔)

(2) 汐井町公園における3on3バスケットコート整備

- 令和7年度に若い世代のアイデアを基に実施した汐井町公園での3on3について、地域住民に対し、社会実験の検証結果をもとに、バスケットコートの整備実施について周知する。また、設計を進めるにあたり、安全で利用しやすく、かつ周辺住民に配慮したルールづくりなど、関係者の声を聴く。
- ソフト面、ハード面の双方を丁寧に進め、設計が終わり次第、速やかに工事を発注する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・地域への周知 ・設計・工事の実施	・関係者との協議		・関係者とのルールづくり

4 課題

課題B (2) 持続可能で自律した地域コミュニティの構築【政策分野：地域コミュニティ】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス【インパクト:高】【緊急度:低】

②課題の内容

- 高齡化、世帯の小規模化や共働き世帯の一般化等を理由に、地域活動を担う人材の減少や固定化が進んでいるが、地域に求められる課題はこれまでのゴミ対策や防犯、子育て支援や見守りに加え、防災減災や孤独孤立対策での重層的支援の一翼を担うなど多岐に渡っている。

③課題の背景や現状

【課題の背景】

- 戸畑区においても自治組織への加入率が減少(H26年度66.1%→R6年度55.9%)。組織の維持及びその担い手の確保が困難な状況になっている。

【課題の現状】

- 戸畑区17の地区自治会では、各地域の活動に熱心に取り組んでいるが、地域間で連携を取りながら実施する活動は少なく、好事例の拡がりに欠ける面が見られる。
- 地域コミュニティの拠点である市民センターについて、高齡者の利用が中心となっているなど、特定の層に利用が固定化・硬直化している課題がある。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

- 各地域との活発なコミュニケーションにより、区役所との関係性が深まる。
- 各地域が持つ考えや困りごとに関して、区役所が適時情報をキャッチすることで、速やかな相談・支援に繋がる。
- 各市民センターでの新たな活動や多世代での活用が進むことで、日頃、市民センター利用の少ない方の参加が増え、地域の交流・つながりの場・活動のきっかけとしての機能が高まる。

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1)「地域担当者制」による各地域の課題収集と横展開

- 戸畑区独自の取組として、区内12地区(まち協単位)に、区課長級以上の職員を各地域の担当者として割り当てることにより、各地域の意見をダイレクトに聴き取る。各地域の会議や行事等への参加、意見交換を通じて得られた課題感や取組等の情報を、随時、全課長が共有できる仕組みを構築する。
- また、他地域での好事例の情報収集をし、各担当地域の関係者へ提供する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・担当の割り当て ・情報収集、共有	・横展開の実施		

(2)“推したくなる”講座の企画と情報発信

- 多世代が活用できる場所となるよう、ニッチで隠れたニーズの掘り起こしと情報発信を行い、市民センターの敷居を低くしていく。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・ニーズ等の情報収集	・講座の企画	・講座の実施	・課題の整理

4 課題

課題B (2) 持続可能で自律した地域コミュニティの構築【政策分野：地域コミュニティ】

⑤令和8年度の実施内容(四半期間隔)

(3)防災訓練を活用した多世代交流

- 区防災訓練は小学校区ごとに自治会を中心とした地域住民参加型の訓練を実施してきた。例年、参加者は高齢者がほとんどのため、防災を軸とした多世代での交流を目指し、小学生への防災教育を中心とした親子で参加しやすい防災訓練に取り組む。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・実施内容検討	・実施計画・調整	・訓練の実施	・実施内容の検証、課題の抽出

4 課題

課題C / (1) 「文教のまち」として選ばれるまちづくり【政策分野：まちづくり】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】【緊急度:低】

②課題の内容

- ・新ビジョンにて「文教のまち」としての価値向上を掲げているが、区民等にとってその印象や実感がまだまだ薄く、まちのポテンシャルが十分に生かされていない。
- ・持続可能なまちづくりを進めていくにあたっては、定住人口増のため戸畑駅前を含む中央通り周辺などの中心市街地の高度利用や、九工大周辺における各施設の連携や回遊性向上などにより、まち全体の魅力を高め“上質な「文教のまち」”を区民と共に創り上げていく必要がある。

③課題の背景や現状

【課題の背景】

- ・戸畑区は、コンパクトなエリアに国内有数の理工系大学である九州工業大学をはじめ多様な高校、旧松本家住宅、夜宮公園、美術館など教育・歴史・文化的資源が集積し、上質な「文教のまち」として高いポテンシャルを有している。
- ・民間会社の住みこち調査では市内1位(県内8位)にランクされるなど、良好な住環境が認知されている。
- ・九工大周辺においては、明治学園(高校入試開始、インターナショナルコース新設)、九工大(未来テラス、ジムラボ)など産学官の連携など文教のまちにつながる動きが出始めている。

【課題の現状】

- ・戸畑区では街中におけるマンション・住宅需要が高く、特に交通機能、商業機能、福祉文化機能が集積している。また、戸畑駅周辺の土地は、市街地再開発でない形でマンションの建設が進んでいる。一方、商店街界隈は閉店した店舗が多い。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

- ・中心市街地が快適で安全な居住環境が整備され、住みやすさが向上することで土地の価値が高まるなど戸畑駅周辺のさらなる活性化に寄与する。
- ・九工大周辺では、九工大駅前～九工大～夜宮公園・旧松本家住宅・旧安川邸等の各施設同士が連携を図ることで、緑豊かな文教のまちとしてエリアの価値が高まり、戸畑区全体の魅力向上につながる。
- ・将来的には、「文教のまち」戸畑の魅力を最大化することで、働く場としての小倉・黒崎に近接するロケーションを活かし、北九州市における快適な暮らしの場として選ばれる。

⑤令和8年度の実行内容(四半期間隔)

(1)「文教のまち」としてのポテンシャル調査

- ・「文教のまち」の未来像を創るため、戸畑区の特長やポテンシャルの深掘り・調査を専門業者へ依頼し、人口動態やエリア特性など基礎的なデータ収集・分析を行う。さらには、他の文教地区の事例収集や戸畑における重点エリアを見定めいく。

第1四半期(4～6月)	第2四半期(7～9月)	第3四半期(10～12月)	第4四半期(1～3月)
・調査内容の検討	・基礎調査等の実施	・区役所での検討、関係者とのヒアリング	

4 課題

課題C / (1) 「文教のまち」として選ばれるまちづくり【政策分野：まちづくり】

⑤令和8年度の実施内容(四半期間隔)

(2)関係者と意見交換を実施

- 地元の機運醸成やまちづくりのきっかけづくりのため、関係者との個別または合同での情報交換や官民共同のイベント実施などに取り組む。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・関係者との意見交換		・イベントを通じた意見交換	・課題の整理、振り返り